

今回特集した「総合型地域スポーツクラブ」は、楽しい雰囲気と会員の皆さんの笑顔がどの教室も印象的で、クラブの魅力について再認識しました。またクラブは地域住民の皆さんが運営されていますが、その献身的な姿にとっても感動しました。

さて、表紙の「願かけ牛」は室町時代の故事に由来した縁起物です。「ことしはモーっと充実した広報紙を皆さんにお届けできますように」と赤牛をお願いしました。(H)



ヘルシー
クッキング
コンテスト
一般部門
最優秀賞



簡単！
ひんやり
ねばねば丼

- 材料・4人分
- 冷やごはん 600g
 - ナガイモ 250g
 - オクラ 5本
 - アジの干物 1枚
 - 刻みのり 少々
 - 薄口しょうゆ 大さじ1
 - みりん 小さじ1
 - いりこだし 500cc

- 作り方
- ①アジの干物は焼き、身をほぐしておく。オクラはゆで、食べやすい大きさに切る。ナガイモは皮をむき、すりおろす。
 - ②鍋にいりこだし、薄口しょうゆ、みりんを入れ、沸騰させる。少し冷やしてから冷蔵庫に入れておく。
 - ③冷やごはんをお皿に盛り、ナガイモ、オクラを盛り付け、上から①をかける。
 - ④刻みのりをのせて、②をかけたら出来上がり。

- 1人分の栄養価 熱量359kcal、たんぱく質12.1g、脂質3.3g、塩分1.2g
- ワンポイント 家にある身近な材料でできます。冷たいので食欲のない朝にもぴったりです。
- 考えていただいた人 福野利恵さん(佐世保北高校1年)

元気な
朝ごはん
レシピ 74

まちづくりについて市長と意見交換しませんか？

-「第6回元気なまちづくりじげもんトーク」参加者募集-



市民の皆さんの意見を行政に生かし、全国に誇れる元気な佐世保をつくるため、市民の皆さんと市長がまちづくりのアイデアについて意見交換を行う「元気なまちづくりじげもんトーク」を開催します。(写真は前回の様子)

- とき 1月21日(水)12時~13時30分
 ところ 市役所5階・副市長応接室
 対象 市内在住者10人程度(応募多数の場合は抽選)
 内容 昼食を取りながら市長と意見交換していただきます。今回はテーマを設定しませんので、自由にお話してください。
 ※昼食代(500円程度)が必要です。
 応募方法 応募用紙に必要事項を明記し、郵送(〒857-8585・住所不要)かファクス(25-2184)、Eメール(hishok@city.sasebo.lg.jp)で秘書課へ。応募用紙は市ホームページからダウンロードできます。希望者にはファクスや郵便でお送りします。
 締め切り 1月15日(木)必着
 秘書課 ☎24-1111

情報クリップ



新たな観光ふるさと大使

昨年11月10日、本市を拠点に県内外で音楽活動中の「SandyTrip(サンディトリップ)」に朝長市長から「佐世保観光ふるさと大使」の委嘱状が交付されました。「佐世保の自然、人、まちなどの魅力が自分たちの音楽の原点であり、佐世保に大変愛着があります。これからも音楽を通して、多くの人に佐世保の素晴らしさを発信していきたいと思います」と意気込みを語るお二人。佐世保のPRをよろしくお願いします。
 ※作詞・ボーカル担当のAYUMIさん(右)と
 作曲・ギターなどを担当するKAZUさん(左)



深浦王位から直接指導

昨年11月18日、本市出身の棋士で、王位戦のタイトル初防衛を果たした深浦康市さんが朝長市長を表敬訪問しました。その後、深浦王位は地元の子もたちを対象に将棋教室を開催。集まった子どもたちは憧れの王位を前に嬉しそうに指導を受けました。深浦王位はこうした教室を年に2回ほど開催されています。深浦王位は市立保立小学校(現清水小学校)を卒業後、修業のため上京。1991年にプロデビュー。一昨年に羽生善治棋士を破り、念願の初タイトルを獲得。昨年のタイトル防衛戦は羽生4冠を相手に第7局まで戦い、王位の座を守りました。

歴史散歩



第522回

再生した旅籠泰平や(三川内町)

四百年の伝統を持つ三川内焼の里に、古い宿屋「泰平や」を再生した陶磁器ギャラリーが造られました。伝統工芸士「第十五代平戸松山」こと中里勝歳さん(六十六歳)と後継者の中里月渡務さん(四十二歳)が手掛け、はまぜん祭りなど窯元あがりの催しや、団体での見学の際に使用され、古びた棟木や梁、柱などが落ち着いた雰囲気を醸し出しています。

記録によると、この旅籠は明治十五(一八八二)年以前に建てられたもので、広い庭に面した濡れ縁、三間の客室と二階に一間があり、炊事場と物置は別棟でした。

平成十八年に取り壊しが決まり、壁を取り除き瓦も降ろすところまで行きましたが、数少ない築百二十年以上の建物を取り壊すのは惜しいと、



土壇場で保存を決めました。再生された建物は二階部分をなくし、和室の吹き抜けにして床の間を設け、平戸藩三十五代藩主・観中公熙の肖像を掛けています。飾り棚には大正時代に旅籠で客用に使用していた徳利や鉢など「泰平や」の屋号入りの器類を展示しています。

広々とした庭の一角には、これも百二十年前に作られた築山があり、植えられている平戸つじも当時の古樹で、初夏には美しい花を咲かせます。

屋根瓦は平戸瓦と呼ばれる独特のもので、宝永四(一七〇七)年に平戸城が改築されたとき、特命で瓦焼きをした木原山出身の丸田家が、代々伝田の納屋谷で焼いてきました。三川内山、江永山、木原山と三つの皿山がある三川内焼の陶郷も、時代の流れの中で少しずつひなびた風情が失われていっていますが、平戸松山家の篤志で昔の旅籠が再生されたことは、喜ばしい限りです。



筒井隆義